新聞記事データベースの活用

お茶の水女子大学附属中学校

＜抄　録＞

総合的な学習の時間での社会問題についてのディベート学習，社会科でのInquiry Design Model（IDM）の理論を参考にした日本の諸地域学習，技術・家庭科での防災・減災×ダイバーシティをテーマとした情報収集の学習で新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を活用した。これらの授業での取り組みを紹介する。

＜キーワード＞

新聞記事データベース，ディベート，Inquiry Design Model，思考ツール

1　はじめに

本校の総合的な学習の時間には，個人で取り組む「自主研究」と学年集団で取り組む「学年総合」がある。どちらのタイプでも資料が必要になるが，その際の情報源の一つとして「朝日けんさくくん」を活用している。現在では，総合的な学習の時間の他，各教科の学習でも「朝日けんさくくん」を活用した学習活動に取り組んでいる。

2　社会問題についてのディベートの学習での活用（総合的な学習の時間）

（1）単元の概要

クラスで５人グループをつくり，学年対抗でディベート大会を行った。ディベートの論題は社会のさまざまな課題を含むものとし，それらの課題について学校図書館の資料や新聞記事データベース，ウェブ情報等を活用して調べ，多面的，多角的に捉え，自分たちの考えに根拠を持って主張する力を高めることを狙いとした。ディベート大会ではクラスごとに弁護士の先生がゲストティーチャーとして参画し，さらに学びを深めていった。

（2）学習のねらい

① 社会の事象を多面的，多角的に深く捉え，社会に対する視野を広げる。

② 情報を的確に集め，批判的に吟味する情報活用能力を育成する。

③ 討論を通して相手の主張を的確に聞き，自らの主張をわかりやすく伝えるスキルを養う。

（3）ディベート論題

ディベートの論題は，「ディベート甲子園」での論題や，社会で話題となっている出来事をヒントに二項対立になるようなテーマを設定した。できるだけ肯定，否定のどちらにとっても有利，不利にならないように条件を絞り込むなどして練り上げた。

テーマ１　フェイクニュース規制

日本はネット上でフェイクニュースを発信や拡散することに対して規制すべきである。是か非か。

テーマ２　高齢者介護体験義務化

日本の中学生は，夏休みの１／２程度を高齢者の介護体験に取り組むことを義務化すべきである。是か非か。

テーマ３　選挙棄権者に罰金

日本は，国政選挙（衆議院議員選挙，参議院議員選挙）を棄権した場合，金銭罰５万円を課すべきである。是か非か。

テーマ４　コンビニ 24 時間営業規制

日本は，コンビニの24時間営業を朝７時～夜11時までの営業時間に規制すべきである。是か非か。

（4）ディベートと情報活用

ディベートの下準備（リサーチ）の際に，学校図書館の資料や新聞記事データベース（「朝日けんさくくん」），ウェブ情報等を活用した。生徒に提示した立論のフォーマットには，情報の信頼性を評価できるように，必ず出典を示すように指導をしている。ディベートは対戦相手よりもより説得力のある根拠を示し，メリットやデメリットを提案することが重要である。そのために事前のリサーチが勝敗の鍵を握る。新聞記事データベースは匿名のウェブ記事と比べ信頼性は高い。またあらゆる観点で社会問題について情報が集まるので，ディベートにおいても積極的に取り入れることを勧めた。

生徒はディベートのリサーチ段階で，さまざまな方法で集めた情報を，優先順位をつけて価値づけし，効果的に組み合わせながら，短い時間で聴衆を説得できるように努力する姿が見られた。

3　「日本の諸地域（北海道地方）」での活用（社会科）

（1）単元の概要

本単元は，Inquiry Design Model（IDM）の理論を参考

お茶の水女子大学附属中学校（東京都文京区大塚 2-1-1）

に構成した北海道地方の実践である。ここでは，生徒が解決を図りたいと思うような「問い」の解決を目指して学習を進めることで，北海道地方が抱えるさまざまな課題に注目させたり，北海道地方の将来像について資料を根拠に予測させたりして，今後の社会のより良い在り方を主体的に考えようとする生徒を育てる単元にしたいと考えた。

なお，IDMの理論等については，草原・大坂編著「学びの意味を追究した中学校地理の単元デザイン」を，北海道地方の単元構成の詳細については，同書の146ページ～151ページを参照されたい。

（２）単元の構成

① 「単元を通して考える問い」の設定

第１時では，自然環境や主な産物の面から北海道地方にはどのような特色が見られるか概観し，単元を通して考えたい問い（CQ；Compelling Question）を立てた。

【CQ】「北海道地方は，今後（30年後）も日本の食糧基地の役割を果たしていけるのだろうか?」

② 問いの追究のための学習

CQの解決を念頭に，第２時から第４時にかけて補助的な学習の問い（Supporting Question）を設定して，学習を進めた。

・第２時：北海道の農業発展の歴史的背景
・第３時：自然環境を生かした産業（水産業，観光業）とその課題（赤潮の発生や気候変動の影響）
・第４時：北海道が抱える課題と産業への影響

③ CQの解決

・第５時で，これまで学んだ知識，学習で用いた資料，自ら調べた資料を用いて，30年後も北海道が食糧基地としての役割を果たせるかについて，資料を根拠に論理的に考察し，情報分析図を用いて写真のように表現させた。

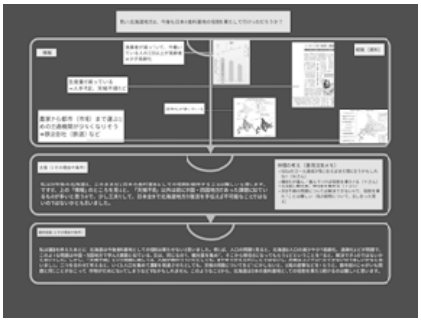

写真　CQの解決としてわかりやすくまとめた生徒の情報分析

・第６時では情報分析図を用いてグループ内発表と議論を行い，自分の論を見直した。

（３）単元での情報活用

第４時で，道民人口と第一次産業従事者の減少，維持困難な鉄道輸送網の出現，北海道地方のジャガイモ農家が抱える気候変動や人手不足といった課題を捉えるための資料の一つとして，「朝日けんさくくん」から「ジャガイモづくり，根深い課題」（2017年6月14日 朝刊 ６ページ 東京本社）の記事や地域面の記事を利用し，北海道の課題をつかんだ。また，課題を克服しようとしている例として，機械化を進める酪農家の取り組みの動画を紹介した。

4　防災・減災×ダイバーシティに関する情報収集での活用（家庭科）

（１）題材の概要

自然災害の多い日本で暮らしていくために家庭分野の学習を生かして備えることで被害を減らせることを家庭分野のガイダンスとして学習する。そこで，「防災・減災」「ダイバーシティ」の視点で「朝日けんさくくん」を活用した情報検索を行った。グループごとに検索した記事を整理させ，思考ツールの一つである座標軸にマッピングさせ，今後「避難所での暮らしをよりよくする工夫」を考えるパフォーマンス課題に取り組ませる。この課題に取り組む際の情報源としての「重要度」を座標軸上で整理させることで，暮らしをよりよくする工夫を考えていく背景にある課題に気付かせ，多面的に捉えていくことの必要性の理解につなげていった。

（２）取り組みと生徒の様子

選んだ記事は，「見出し」「内容」「選んだ理由」の項目でロイロノート・スクールの共有ノート上で割り当てられたカードに整理させ，そのカードを座標軸カード内に取り込ませマッピングを行った。座標軸のX軸を「ダイバーシティ（多様性）」，Y軸を「防災・減災」として，パフォーマンス課題に取り組む際の重要度の高さを整理させた。記事を検索する際は，家庭分野の教科書巻末付録『防災・減災手帳』や上級生が総合的な学習の時間に作成したウェブサイト『お茶中防災プロジェクト』内の情報をヒントとして，どのようなキーワードで検索すればよいかをグループごとに話し合わせた。また，共有ノート上に整理されはじめた内容をいくつか紹介することで，思うように情報を収集できていないグループも取り組みの具体的なイメージを持つことができた。

5　おわりに

各教科の学習や総合的な学習の時間において，新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を活用することで，生徒が主体となり，社会参画していく姿勢の育成につながる学習活動につなげることができた。今後は，１人１台端末環境下での活用方法について検討していきたい。